平成 18 年度 広島大学 2 次試験前期日程 (数学問題)120 分教育 (第一類·第二類 (技術·情報系)·第四類 (人間生活系))·経済 (昼)·歯 (口腔健康科学 (口腔保健))

問題 1 2 3 4 5

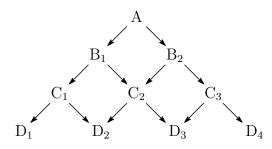
- 1 次の問いに答えよ.
 - (1) $\sqrt{7}$ の小数部分を p とするとき, $\frac{3}{p}-p$ は整数であることを示し,その整数を求めよ.
 - (2) k > 0 を定数とするとき、x についての方程式

$$\log_3 x = kx$$

が二つの実数解aと3aをもつとする.このとき、kの値とaの値を求めよ.

- **2** $a_1 = 1$ と $a_{n+1} = 3a_n n$ $(n = 1, 2, 3, \cdots)$ によって定義される数列 $\{a_n\}$ について、次の問いに答えよ.
 - (1) $p \, e^{-1} \,$
 - (2) a_n を n の式で表せ.
 - (3) 数列 $\{a_n\}$ の和 $\sum_{k=1}^n a_k$ を n の式で表せ.

- **3** 図の一番上の点 A から玉を落とす.玉はそれぞれの分岐点において,確率 p で 左下に,確率 1-p で右下に向かうものとする.また,この図の B_1 , B_2 の段を 1 段目, C_1 , C_2 , C_3 の段を 2 段目として段数を数えるものとする.0 として,次の問いに答えよ.
 - (1) 2段目の点 C_1 , C_2 , C_3 に対して、玉がその点に落ちてくる確率を求めよ。
 - (2) 2段目の点のうち、点 C_2 に玉が落ちてくる確率が、他の点 C_1 、 C_3 の各点に落ちてくる確率のいずれより大きくなるとする。このとき、pの値の範囲を求めよ。
 - (3) 3段目の点のうち、点 D_3 に玉が落ちてくる確率が、他の点 D_1 、 D_2 、 D_4 の各点に落ちてくる確率のいずれよりも大きくなるとする。このとき、p の値の範囲を求めよ。

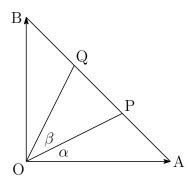


- 4 平面上で、ベクトル \overrightarrow{OA} と \overrightarrow{OB} は直交し、 $|\overrightarrow{OA}| = |\overrightarrow{OB}| = 1$ を満たすとする. 線分 AB を 3 等分し、図のように、A に近い点を P、B に近い点を Q とする. また、 $\angle AOP = \alpha$ 、 $\angle POQ = \beta$ とする. 次の問いに答えよ.
 - $(1) \cos \alpha$, $\cos \beta$ の値を求めよ.
 - (2) $\alpha < 30^{\circ} < \beta$ を示せ.
 - (3) 線分PQ上に, 点Rを

$$\overrightarrow{OR} = k\overrightarrow{OA} + (1 - k)\overrightarrow{OB}$$

となるようにとる. このとき, $|\overrightarrow{\mathrm{OR}}|^2$ を k の式で表せ.

(4) (3) の R に対して、 $\angle POR = \alpha$ となるとき、k の値を求めよ.



5 直線 y = -2x + m が、放物線 $y = -\frac{1}{2}x^2 + ax$ (a > 2) に点 P(p, q) で接している。連立不等式

$$\begin{cases} 0 \le y \le -\frac{1}{2}x^2 + ax \\ x \le p \end{cases}$$

の表す領域の面積を S_1 とする。また、連立不等式

$$\begin{cases} -\frac{1}{2}x^2 + ax \le y \le -2x + m \\ 0 \le x \le p \end{cases}$$

- の表す領域の面積を S_2 とする.このとき、次の問いに答えよ.
- (1) a, m, qをpの式で表せ.
- (2) S_1 と S_2 を p の式で表せ.
- $(3) \ a>2$ のとき, $rac{1}{2}<rac{S_2}{S_1}<2$ が成り立つことを示せ.

解答例

1 (1)
$$p = \sqrt{7} - 2$$
 であるから

$$\frac{3}{p} - p = \frac{3}{\sqrt{7} - 2} - (\sqrt{7} - 2) = (\sqrt{7} + 2) - (\sqrt{7} - 2) = 4$$

(2) 方程式 $\log_3 x = kx$ の二つの解が a と 3a であるから

$$\begin{cases} \log_3 a = ka & \cdots \\ \log_3 3a = 3ka & \cdots \\ 2 \end{cases}$$

② より、 $\log_3 a = 3ka - 1$ であるから、これを① に代入すると

③を①に代入すると

$$\log_3 a = \frac{1}{2}$$
 ゆえに $a = \sqrt{3}$

これを
$$3$$
に代入すると $k=rac{1}{2\sqrt{3}}$

 $\mathbf{2}$ (1) $\{b_n\}$ は公比 3 の等比数列であるから

$$b_{n+1} = 3b_n$$

上式および $a_{n+1} = 3a_n - n$ の辺々の差をとると

$$b_{n+1} - a_{n+1} = 3(b_n - a_n) + n$$

$$b_n = a_n + pn + q$$
 より $b_n - a_n = pn + q$ であるから

$$p(n+1) + q = 3(pn+q) + n$$
 ゆえに $(2p+1)n - p + 2q = 0$

上の第2式は、nに関する恒等式であるから

$$2p+1=0, -p+2q=0$$
 よって $p=-\frac{1}{2}, q=-\frac{1}{4}$

(2) $b_1=a_1+p+q=1-rac{1}{2}-rac{1}{4}=rac{1}{4}$, $\{b_n\}$ は公比 3 の等比数列であるから

$$b_n = \frac{1}{4} \cdot 3^{n-1} = \frac{3^{n-1}}{4}$$

(1) の結果より、 $b_n = a_n - \frac{1}{2}n - \frac{1}{4}$ であるから

$$a_n = b_n + \frac{1}{2}n + \frac{1}{4} = \frac{3^{n-1}}{4} + \frac{1}{2}n + \frac{1}{4}$$

(3) (2) の結果から

$$\sum_{k=1}^{n} a_k = \sum_{k=1}^{n} \left(\frac{3^{k-1}}{4} + \frac{1}{2}k + \frac{1}{4} \right)$$

$$= \frac{1}{4} \cdot \frac{3^n - 1}{3 - 1} + \frac{1}{2} \cdot \frac{1}{2}n(n+1) + \frac{1}{4}n$$

$$= \frac{3^n - 1}{8} + \frac{1}{4}n(n+2)$$

(1) C_1 , C_2 , C_3 に対して、玉が落ちてくる確率は、順に

$$p^2$$
, $2p(1-p)$, $(1-p)^2$

(2) (1) の結果により

$$p^2 < 2p(1-p) > (1-p)^2$$
 ゆえに $p < 2(1-p)$, $2p > 1-p$ したがって $3p < 2$, $3p > 1$ よって $\frac{1}{3}$

(3) D₁, D₂, D₃, D₄ に対して, 玉が落ちてくる確率は, 順に

$$p^3$$
, $3p^2(1-p)$, $3p(1-p)^2$, $(1-p)^3$

条件より
$$p^3 < 3p(1-p)^2$$
, $3p^2(1-p) < 3p(1-p)^2 > (1-p)^3$

したがって
$$\begin{cases} p^2 < 3(1-p)^2 & \cdots \\ p < 1-p & \cdots \\ 3p > 1-p & \cdots \end{cases}$$

① より
$$2p^2 - 6p + 3 > 0$$
 すなわち $p < \frac{3 - \sqrt{3}}{2}, \ \frac{3 + \sqrt{3}}{2} < p$

これらの共通範囲を求めて
$$rac{1}{4}$$

4 (1) 座標平面上の点として, O(0, 0), A(1, 0), B(0, 1) とすると

$$P\left(\frac{2}{3}, \frac{1}{3}\right), Q\left(\frac{1}{3}, \frac{2}{3}\right)$$

$$\vec{a} = (1, 0), \quad \vec{p} = (2, 1), \quad \vec{q} = (1, 2)$$

よって
$$\cos \alpha = \frac{\vec{a} \cdot \vec{p}}{|\vec{a}||\vec{p}|} = \frac{2}{\sqrt{5}}, \quad \cos \beta = \frac{\vec{p} \cdot \vec{q}}{|\vec{p}||\vec{q}|} = \frac{4}{5}$$

(2)
$$\frac{4}{5} > \frac{3}{4} > \frac{16}{25}$$
 より $\frac{2}{\sqrt{5}} > \frac{\sqrt{3}}{2} > \frac{4}{5}$ ゆえに $\cos \alpha > \cos 30^{\circ} > \cos \beta$

$$\alpha$$
, β は鋭角であるから $\alpha < 30^{\circ} < \beta$

$$lpha$$
, eta は鋭角であるから $lpha < 30^\circ < eta$ (3) $\overrightarrow{OA} = (1, \ 0)$, $\overrightarrow{OB} = (0, \ 1)$. $\overrightarrow{OR} = k\overrightarrow{OA} + (1-k)\overrightarrow{OB}$ より

$$\overrightarrow{OR} = k(1, 0) + (1 - k)(0, 1) = (k, 1 - k)$$

よって
$$|\overrightarrow{OR}|^2 = k^2 + (1-k)^2 = 2k^2 - 2k + 1$$
 $\left(\frac{1}{3} \le k \le \frac{2}{3}\right)$

$$R(k, 1-k)$$
 より、直線 OR の傾きは $\frac{1-k}{k}$

したがって
$$\frac{1-k}{k} = \frac{4}{3}$$
 よって $\mathbf{k} = \frac{3}{7}$

5 (1)
$$f(x) = -\frac{1}{2}x^2 + ax$$
 とおくと $f'(x) = -x + a$

放物線 y = f(x) と直線 y = -2x + m は点 P(p, q) で接するから

$$-\frac{1}{2}p^2 + ap = -2p + m = q, \quad -p + a = -2$$

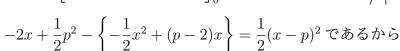
第2式から a=p-2 これをを第1式に代入すると

$$-\frac{1}{2}p^2 + (p-2)p = -2p + m = q$$

よって
$$m=rac{1}{2}p^2,$$
 $q=rac{1}{2}p^2-2p$

(2) 直線
$$y = -2x + \frac{1}{2}p^2$$
 および 放物線 $y = -\frac{1}{2}x^2 + (p-2)x$ より

$$S_{1} = \int_{0}^{p} \left\{ -\frac{1}{2}x^{2} + (p-2)x \right\} dx$$
$$= \left[-\frac{1}{6}x^{2} + \frac{1}{2}(p-2)x^{2} \right]_{0}^{p} = \frac{1}{3}p^{3} - p^{2}$$



$$S_2 = \int_0^p \frac{1}{2} (x - p)^2 dx = \frac{1}{6} \left[(x - p)^3 \right]_0^p = \frac{1}{6} p^3$$

(3)
$$a>2$$
 \downarrow b $p-2>2$ \uparrow \Leftrightarrow $b>4$ $\cdots ①$

(2) の結果から
$$\frac{S_1}{S_2} = 2 - \frac{6}{p}$$

① より
$$\frac{1}{2} < 2 - \frac{6}{p} < 2$$
 したがって $\frac{1}{2} < \frac{S_1}{S_2} < 2$ よって $\frac{1}{2} < \frac{S_2}{S_1} < 2$

別解 a > 2 より, p > 4 であるから

$$2S_2 - S_1 = \frac{1}{3}p^3 - \left(\frac{1}{3}p^3 - p^2\right) = p^2 > 0$$
$$2S_1 - S_2 = 2\left(\frac{1}{3}p^3 - p^2\right) - \frac{1}{6}p^3 = \frac{1}{2}p^2(p-4) > 0$$

よって
$$\frac{1}{2} < \frac{S_2}{S_1} < 2$$